

令和 2 年 12 月 17 日

富士ベッド工業(株)取締役社長	小野 弘幸 様
アサギ(株)取締役東京支店長	浅黄 利洋 様 (オンライン参加)
日本ふとん製造協同組合専務理事	只野 悟 様 (欠席)
まくら(株)代表取締役社長	河元 智行 様
(一財)ボーケン品質評価機構東京事務所	末永 尚弘 様
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良
(一社)日本寝具寝装品協会	中村 富夫 事務局 池田努

JBA 第 7 期 : 第一回まくら部会 議事録

1. 開催日時 令和 2 年 12 月 10 日 (木) 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 (一社)日本寝具寝装品協会 (東京都中央区日本橋小舟町 7 - 2)

3. 議 題

(1) 高さ・硬さの測定方法について

- ・ 前回までの進捗状況説明を受けて下記の意見が出され、対応策が検討された。

【試験器具】

(意 見)

測定に用いる器具として「帽子計測用頭部 (ボーケン所有)」を使用していたが、

- ・ 各試験機関が所有している器具なのか
- ・ 価格はいくらなのか(一般的価格なのか)
- ・ 簡易に試験可能な器具は他にないか
- ・ 横寝に対する試験が可能な器具も検討してほしい

(対応策)

- ・ 帽子計測用頭部の価格確認 (末永委員へ依頼)
- ・ 各検査機関への帽子計測用頭部の保有確認 (事務局)

【高 さ】

数値での表示ではなく、「高・中・低」の抽象的な表現方法で進めることを再確認した。

ただし、具体的な根拠をバックボーンとして有することは必須との意見があった。

【硬 さ】

(意 見)

- ・ 硬さを 5 段階で表示しているが、基準が無く被験者の感覚で評価しているので、明確な基準が必要である。
- ・ まくらカバーに依ってもかなり硬さは変わる。
- ・ 硬度計 (デュロメータ) で計測できないだろうか。

今までの進捗状況を再確認する中で出された今回の意見を受け、計測に用いる器具の選定を最優先課題として、次回委員会までに各自情報収集に努めることとした。

(2) ラベルの普及推進策について

事務局より、来春からラベル貼付(パッケージ印刷)予定の企業が 1 社あるが、他に申請企業は無いとの報告があった。

普及には、「高さ・硬さ」の J B A 独自の基準に基づく表示の開発が必要であるとの認識を共有した。

(3) その他

まくら品質表示のJ I S化に向けて、(一社)繊維評価技術協議会に指導を受ける予定である旨、事務局より報告があった。

次回開催日は、後日 事務局より連絡いたします。

以上